

争点

- ①70年前の都市計画決定の違法性
- ②昭和25年、41年の都市計画決定は内閣の認可がない
- ③都市計画決定は土地利用の合理性がなければならず、86号線計画はくらし・景観・環境など街を壊すものである



東京名湧水57選

わが街探索 湧水編

# 湧き水を涸らすおそれのある道路は絶対に通させない!!

東京23区内の湧水は、宅地造成の関係もあってほとんどが涸れてしまっています。都内の中でもここほどの水量は珍しく、何としても残さなくてはなりません。自然は一度壊したら戻せないにもかかわらず、都は計画があると強弁して検証すらしないまま建設を進めています。



湿地帯

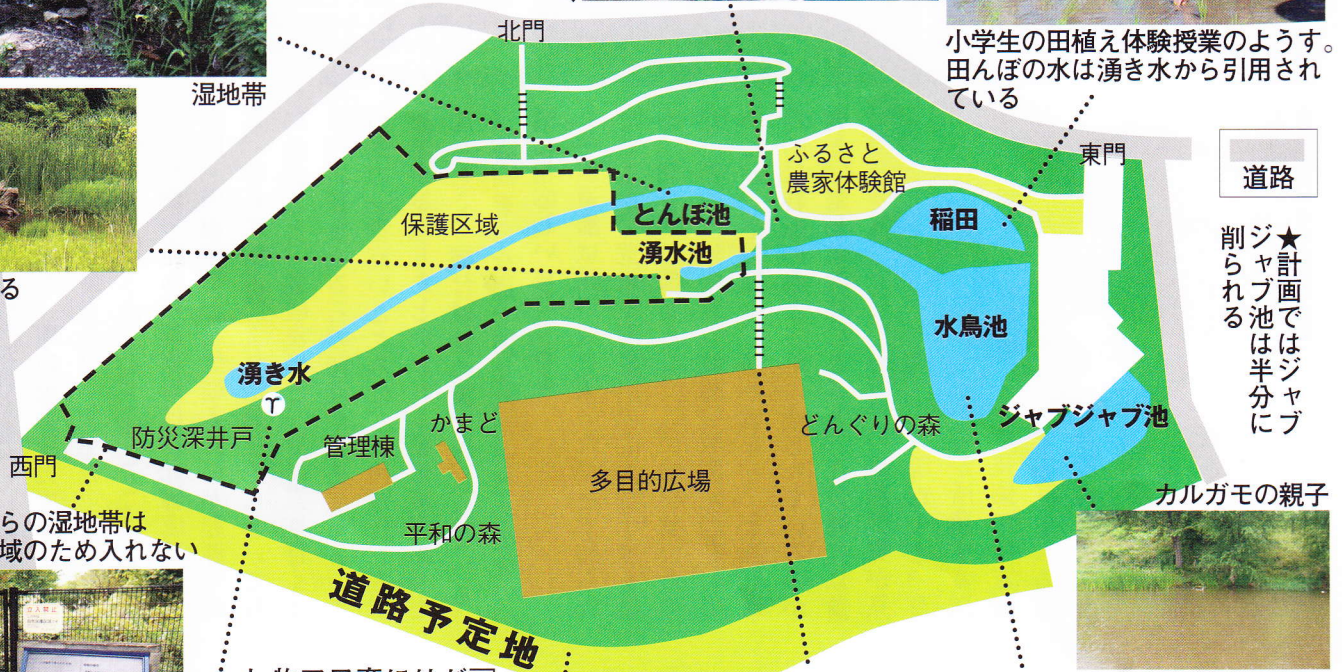


湧水池もある

湧き水でザリガニ、カニなどを捜す子どもたち



小学生の田植え体験授業のようす。田んぼの水は湧き水から引用されている



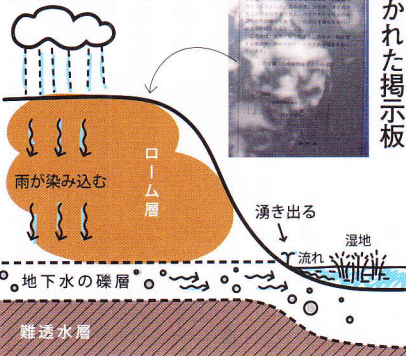
★計画ではジャブ池は半分に削られる

縄文時代からの湿地帯は自然保護区域のため入れない



「奥から流れる湧水は水質がよく、上流の池や流れでは、周囲の植生が発達するにいたが、きれいな水に育つ水草や源氏ボタル、カワゲラ、オニヤンマ、アジアイトトンボなどの野生生物が見られるようになるでしょう」と書かれた掲示板

湧水の模式図



街の皆さんへお願い  
◎原告団 TUNAGU (つなぐ会) は裁判へのご支援 (裁判の傍聴・カンパ1口1,000円~) を訴えております。



階段の上には多目的広場



湧き水は水鳥池へ注ぎこんでいる



現在、道路予定地は高台で草地になっているため雨が降ると地面に染み込み、地下の層で濾過され湧き水になります (左図)。計画どおりこの草地をコンクリートでふたをしてしまえば湧き水が涸れるおそれがあり湿地帯の植物や周囲の動植物にも多大な影響を及ぼします。

争点

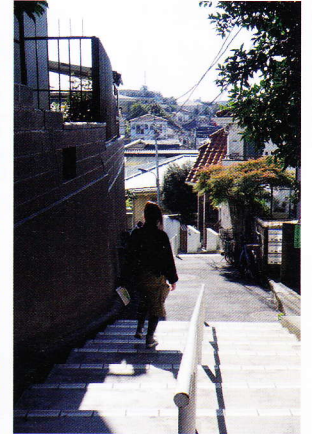
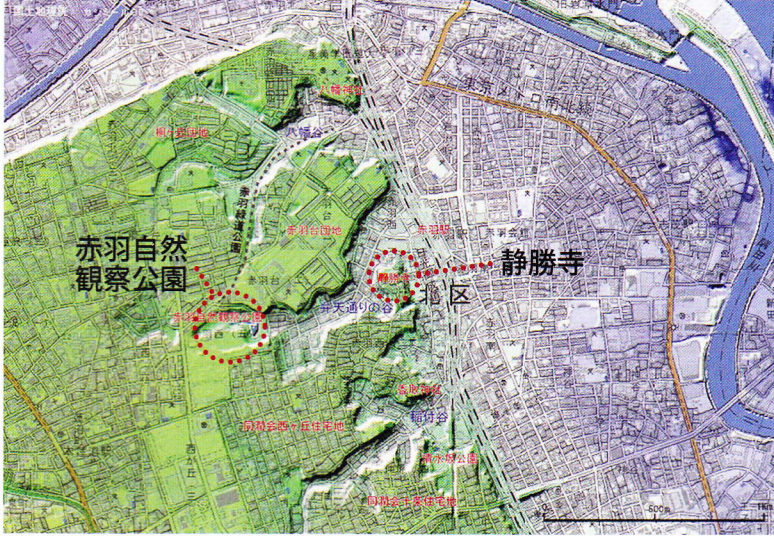
- ①70年前の都市計画決定の違法性
- ②昭和25年、41年の都市計画決定は内閣の認可がない
- ③都市計画決定は土地利用の合理性がなければならず、86号線計画はくらし・景観・環境など街を壊すものである



わが街探索 歴史編

# 武蔵野台地東端の街赤羽

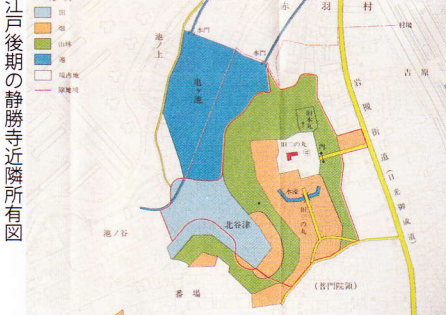
(凹凸を楽しむ東京「スリパチ」地形散歩より参照)



静勝寺へ上る急な石段を上り切るとお寺の境内。多くの住民が景観を楽しみながら行き来する場所である

静勝寺裏の階段を下りながら西方スリパチビューを楽しむ

赤羽駅周辺の段彩地形図



江戸後期の静勝寺近隣所有図  
の地理歴史が見え隠れする。お寺が所蔵する江戸後期の所有図(上図)をみると当時の太田家の権勢が伺える。上ってきた参道を振り返り、崖下に広がるかつての宿場町を

城に相応しい地形である。  
**太田**道灌は江戸城を開いたことで知られているが、荒川や利根川の広大な平野を望む、北方への備えとしてこの城を築いたのだ。城内には中世の城跡が数多く点在しているが、牛込城や石神井城など、どれも地形的に特徴のある場所に造られているのが判る。地形に敏感になると、江戸時代以前

日光御成道(通称岩槻街道)とはその名の通り、将軍が日光へ参詣する道として江戸時代に整備されたもので街道沿いにはかつて木造2階建の町屋が軒を並べていた。現在、道路拡幅が進み、用地用途変更でビルが立ち並び、古い町並みは一変した。かつての宿場町の記憶を呼び起こすことは難しい。  
**古**くから赤羽の繁華街は日光御成道の宿場町・岩淵本宿として栄えたのが起源である。さらに駅南口より街道を少し歩いて右に曲がると、急峻な崖と、崖に張り付くように斜面を上る石の階段が見えてくる。この先の一番高いところに、戦国時代、太田道灌が築城したといわれる稲付城があった。地らしく、稲付城址の碑が残されている。三方向を急な崖で囲まれた天然の要害で、

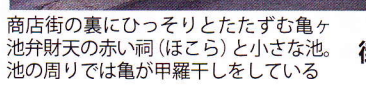
見下ろす。建造物は残されていないけれど、土地の形状はこの地で練り広げられた歴史を伝えてくれる。戦国の武将たちは、どんな想いでこの風景を眺めたのだろうか。さらに台地の中央、静勝寺の境内へと足を進める。禅宗らしい美しい庭と建築で、駅近くとは思えないほど静謐な空気が流れる。静勝寺を出て、上ってきた参道とは反対側へと進むとすぐに崖を下りる急な階段が待っている。慎重に階段を下りながら、谷間ビューを楽しむ。特に赤羽の場合、反対側の台地が近いので、凸凹地形を把握しやすく北側には赤羽台の台地がひろがり、西側は谷の地形で住宅地がひろがる。

判る。地形に敏感になると、江戸時代以前の地理歴史が見え隠れする。お寺が所蔵する江戸後期の所有図(上図)をみると当時の太田家の権勢が伺える。上ってきた参道を振り返り、崖下に広がるかつての宿場町を

谷底にはかつて小川が流れていたが、現在では暗渠化され商店街に整備されている。通りの名は弁天通り。その名の由来となった亀ヶ池弁財天と小さな池が商店街の裏にひっそりと残されている。もとは大きな池であったが、この地に工場が進出した際、大半が埋め立てられ、現在の姿になっている。かつてこの池は、稲付城の水堀だとされている。凸凹地形には郷土の歴史を紐解くヒントが多く隠されている。

弁天通りの谷間を流れていた小川の水源地は、西側、ほど近い赤羽自然観察公園内にある湧き水で、公園整備に伴い源流付近は立ち入り禁止区域として保全されている。山奥に行かずとも、こんな町中で水源探索が楽しめる。身近にそんな場所が潜んでいるのもまた赤羽の魅力でもある。

見下ろす。建造物は残されていないけれど、土地の形状はこの地で練り広げられた歴史を伝えてくれる。戦国の武将たちは、どんな想いでこの風景を眺めたのだろうか。さらに台地の中央、静勝寺の境内へと足を進める。禅宗らしい美しい庭と建築で、駅近くとは思えないほど静謐な空気が流れる。静勝寺を出て、上ってきた参道とは反対側へと進むとすぐに崖を下りる急な階段が待っている。慎重に階段を下りながら、谷間ビューを楽しむ。特に赤羽の場合、反対側の台地が近いので、凸凹地形を把握しやすく北側には赤羽台の台地がひろがり、西側は谷の地形で住宅地がひろがる。



商店街の裏にひっそりとたたずむ亀ヶ池弁財天の赤い祠(ほこら)と小さな池。池の周りでは亀が甲羅干しをしている

街の皆さんへ——原告団 TUNAGU (つなぐ会) は裁判へのご支援(裁判の傍聴・カンパ1口1,000~)を訴えております。